
開会挨拶

武田信照

〈愛知大学学長〉

愛知大学が設置しております国際中国学研究センター、我々これは ICCS と略称しておりますが、この ICCS が主催する国際シンポジウム、その第 1 部がすでに 10 月に 2 日間にわたって開催をされました。その第 2 部が今日から 2 日間にわたってここ車道校舎のコンベンションホールを舞台に開催をされるわけでございます。明日の午前中には、霞山会との共催による西部大開発に関わる特別講演会もこのシンポジウムに組み込まれております。この国際シンポの開催にあたり我が国内外で中国に関わる各分野で精力的にこの活躍をされている諸先生に報告者あるいはパネリストとしての役割をお願い致しましたところ、快くお引き受けをいただきました。諸先生方に何よりもまず厚くお礼を申し上げます。それからこのシンポのために会場に足をお運びいただきました参会者の皆様方にも、主催者として感謝を申し上げたいと思います。

ICCS は、一昨年文部科学省が始めました世界最先端の研究教育拠点の形成を支援する 21 世紀 COE プログラムに採択され、この間文部科学省から重点的な支援を受けてまいりました。この国際シンポジウムは現代中国学の構築に関わる高い水準での学問的な交流と対話を成り立たせるための ICCS のメインの事業の一つでございます。10 月のシンポジウムの際にもご紹介申し上げましたが、もう一つ大きな柱をなしているのが若手中国研究者の養成という事業でございます。この 4 月に中国人民大学、南開大学という 2 大学と本学との間で、大学院中国研究科博士課程における二重学籍、二重学位の制度をスタートさせました。これは博士課程 3 年間のうち 2 年間は双方向的な設備を使いまして、遠隔講義で学ぶ、そして残りの 1 年間は直接相手校に行きまして学ぶという制度で、すでにこの 9 月には、中国の 2 大学からそれぞれ 5 名ずつ計 10 名の優秀な院生が本学に来て学んでおります。来年の 4 月からは本学から中国の 2 大学に本学中国研究科の院生が行きまして学ぶことになっているわけでございます。

愛知大学はご承知の方も多いと思いますが、戦前中国は上海にあった東亜同文書院大学の関係者が中心となって設立した大学でございます。設立の当初より中国に関わる教育、研究を重視してまいりました。その伝統と実績に加え、先程紹介いたしましたような ICCS の諸活動、諸事業、これによって、愛知大学の個性的特徴を一層発展させていきたいと考えているところでございます。

本日から開催される国際シンポジウムは 1 日目が経済問題、2 日目が環境問題でございます。中国経済は内部に大きなひずみを生み出しながらも高い経済成長を持続させております。そして世界経済に大きな影響を与える力を蓄えてきております。そしてそのまさに高い経済成長が、深刻な環境問題やエネルギー問題を引き起こしているということもご承知の通りであります。これはけして中国一国内部にとどまる問題ではございません。こうした諸問題について本日から国際シンポジウムがその深い理解のために大いに貢献するものと信じているところでございます。シンポジウ

ムの成功を祈って主催者からの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。